令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　中井　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

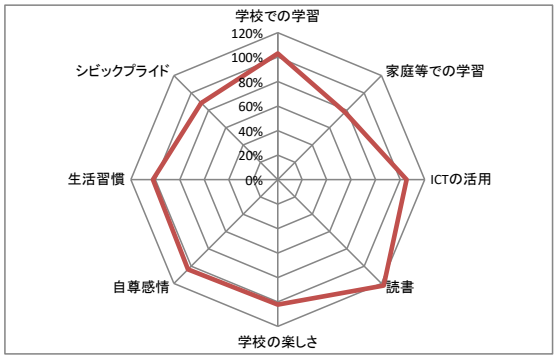
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には，全国平均を上回っている。基本的な知識・技能を問う問題はできているが，記述式の問題は，どれも全国平均を２～４ポイント下回っている。内容や要旨をとらえながら読む力をつけさせるとともに，目的や意図に応じて書く力をつけていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は，他の問題よりも全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめることができるかを問う問題の正答率は，全国平均を４ポイント以上下回り，無回答率も多かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全１６問中１１問で正答率が全国平均を上回っている。また，思考・判断・表現を問う問題７問のうち６問で正答率が全国平均を上回っている。記述式の問題は全て全国平均を上回っているが，短答式の問題のうち図形の意味や性質について問う問題は全国平均を他よりも下回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	小数の加法や乗法を使い，求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題や，グラフを読みその違いを言葉と数を用いて記述する問題の正答率は，全国平均を８ポイント以上上回っている。	
	努力が必要な問題	三角形の意味や性質を理解しているか問う問題の正答率は，全高平均も低かったが，本校ではそれよりもさらに８ポイント以上低かった。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 自尊感情に関わる問い「自分にはよいところがあると思う」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的回答をした児童の割合は，どれも全国平均を上回っていた。
- 授業以外に読書をしているに肯定的回答をした児童の割合は，全国平均を２０ポイント近く上回っていた。
- 家庭学習について肯定的な回答をしている児童の割合がとても低い。特に土曜，日曜など学校が休みの日に勉強に取り組んでいる児童の割合は全国平均の半分以下だった。
- 「授業では，各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていた」に肯定的な回答をした児童の割合が，全国平均よりも５ポイント近く低かった。単一の教科や単一の単元での学びだけでなく，各教科等の学びを関連付け，そこで得た学びを今後に生かすことができるような学習指導に取り組む必要がある。
- 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は，個に応じた指導の場面や，家庭での調べ学習等でも活用できるように啓発していく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・質問紙の読書に関して肯定的な回答をしたポイントはかなり高いが，国語の読むことに関して肯定的な回答をしたポイントは全国平均よりも低い。文章と他の資料を結びつけるなどして必要な情報を見つけるなど，学習の中で「読み取る」ことの手立ての工夫や取組の見直しが必要である。また，漢字や計算などの基礎的な内容も補充学習の時間等を活用し繰り返し取り組んでいく。
・授業でＩＣＴ機器の使用は昨年度よりも増えているが，一斉に取り組むだけでなく，個に応じた活用を工夫していく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習に対して肯定的な回答をしたポイントが低いことから，学校では「もっと知りたい」「深めたい」という意欲を育て，それが家庭学習へとつながるような取組をしていきたい。また，各学年のキャリア教育を見直し，各学年段階に応じたつながりのあるカリキュラムづくりをしていく。
・朝食を毎日食べているに肯定的な回答をした児童のポイントが全国平均よりも低い。児童や保護者に朝食の大切さを啓発していく必要がある。